

「ふたご座流星群の輻射点」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「ふたご座流星群」が昨夜から今夜にかけて極大を迎える。流星群と言うのは、主として彗星の尾が残したダスト(塵)の帯と、地球軌道が交差する時、その塵が地球大気に飛び込む現象だ。流星は、天球上の一点から放射状に飛ぶ。その一点は「輻射点」と呼ばれ、その輻射点がある星座名をとって、流星群の名称とすることが多い。



写真は「しし座流星群」の流星である。しし座の中の一点を中心に、たくさんの流星が飛んでいる。



図は、今夜(12月14日)午後9時の東京の東天の

様子だ。ふたご座が頭を左にして、高度30°付近に見える。そのふたご座の「カストル」という星の近くに流星群の輻射点がある。

しし座流星群(しし群)は、しし座付近を中心に、明るい流星(特に明るい火球も含む)が多いのに対し、ふたご座流星群(ふたご群)は、明るさこそしし群にはかなわないが、ほぼ全天に流星をまき散らすように感じる。



「ふたご群の流星とかんむり座」2018, 12, 14 06:12

スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス村



写真は昨夜、遠隔観測で撮影した、ふたご群由来の流星である。横に写っている「かんむり座」は夏の星座で、ふたご座からはかなり離れている。しかし、流星の軌跡(飛んできた方向)は、まさにふたご座の方向で、紛れもなく「ふたご群の流星」とわかる。昨夜の観測では、3台のカメラで100個以上の流星をとらえることに成功した。中には、オリオン座やこと座の近くを飛ぶものもあった。日本でも期待できそうだ。